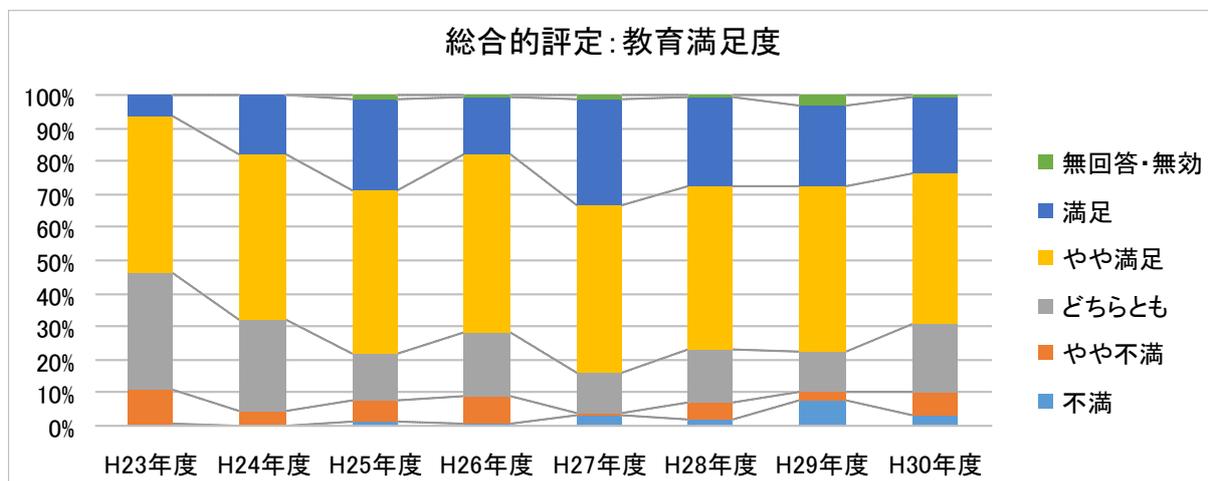


平成 30 年度卒業論文提出時調査結果概要

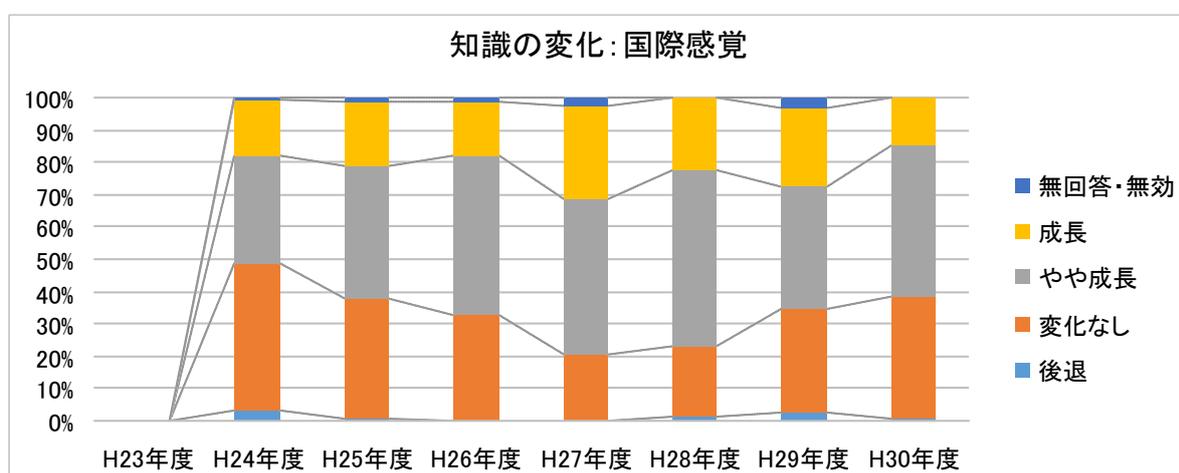
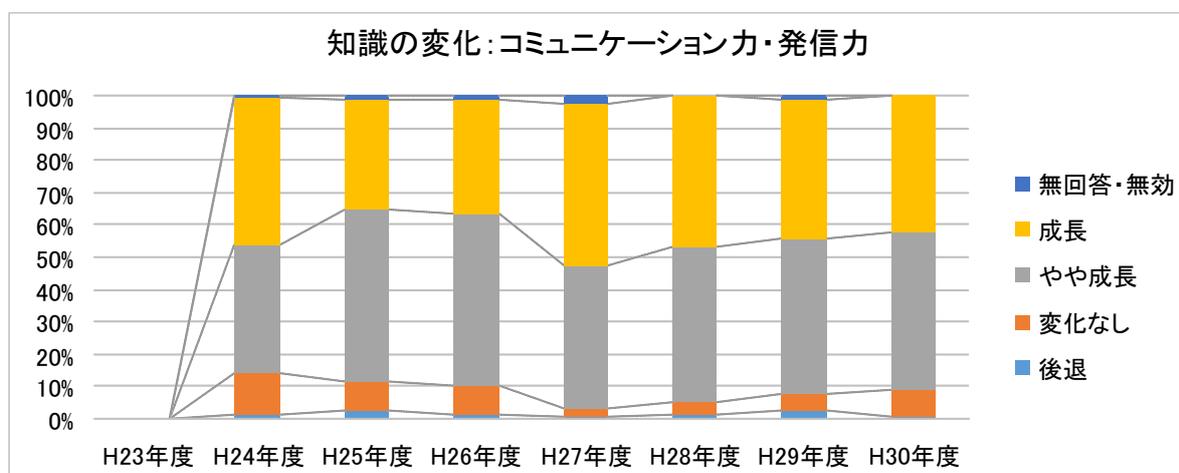
公益学部では、卒業論文を提出する 4 年次を対象にアンケートを実施し、学生の成長実感や満足度等について、過年度との比較を行っている。

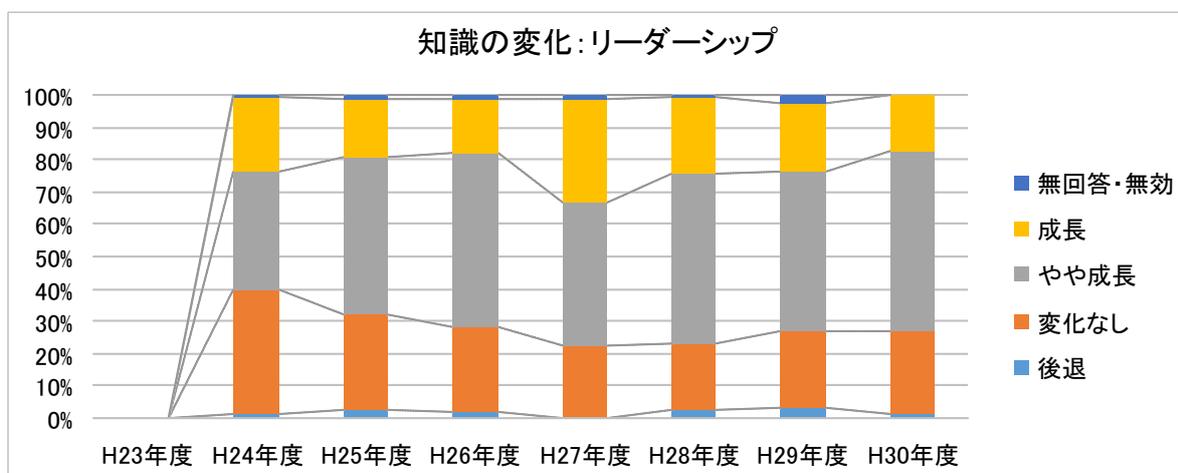
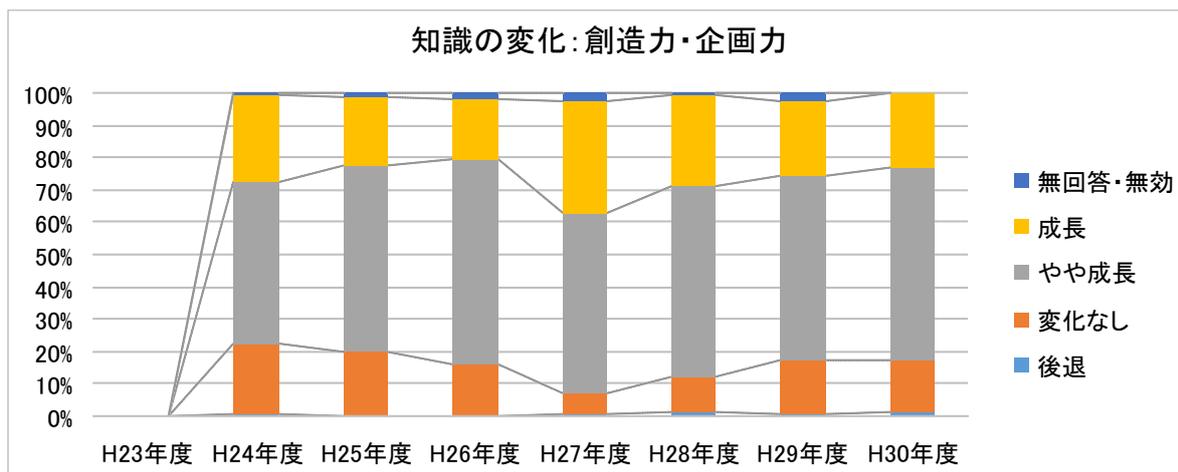
平成 30 年度（平成 31 年 1 月回収）は回収率 100%であった。

以下、重要な項目について分析結果を記す。

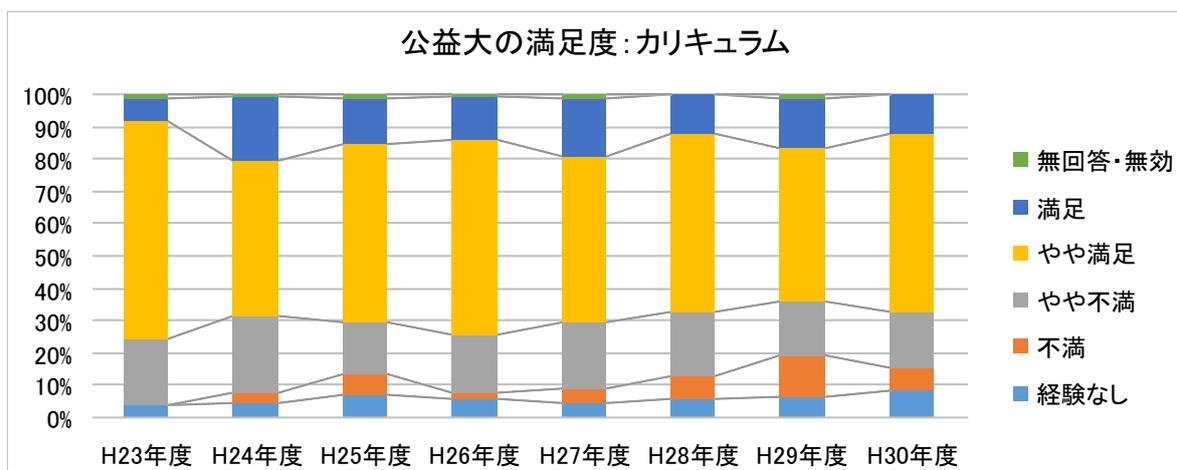


教育満足度で「満足」「やや満足」と答えた学生の比率は 68.5%で、前年度より 6.1%減少した。しかし、「どちらとも」を入れると 89.3%で、前年度より 2.8%上昇した。現在のカリキュラムになった平成 27 年度卒業生以降、教育満足度は年々上昇していると評価できる。





ディプロマポリシーで示す 4 つの力について「成長」「やや成長」と答えた割合は、現在のカリキュラムになった平成 27 年度卒業生以降、着実に上昇している。「成長」「やや成長」と答えた割合を、平成 30 年度と前年度とで比較すると、「国際感覚」ではほぼ同じだったが、「コミュニケーション力・発信力」「創造力・企画力」「リーダーシップ」では伸びを示した。



カリキュラムについて「満足」「やや満足」と答えた割合は、平成 30 年度は平成 28 年度と同程度であった。平成 29 年度はやや低かったが、当時の学生の意見などから「専門演習」の履修方法（指導教員の選択方法）が変わった（交流文化系の学生は「系外」の教員を選択できなくなった）ことが影響したと考えられる（「系外」は平成 30 年度から設けていない）。